

導入事例

マトリクス認証[®]を使った、デバイスのいらないワンタイムパスワード

SECUREMATRIX[®]

古河電気工業株式会社

**ブラウザのみを利用する本人認証システムで、
VPNアクセスにおけるセキュリティ向上と
運用管理の軽減を実現！**

導入企業

Bound to Innovate

古河電工

古河電気工業株式会社
www.furukawa.co.jp

本社

〒100-8322 東京都千代田区丸の内2-2-3

TEL.03-3286-3001

事業内容：光・情報システム、エレクトロニクス、
新素材、自動車関連等の研究開発・技術開発お
よび各種製品の製造・販売

課題

- 接続環境が限られ、ブロードバンドを利用できなかった
- ユーザ情報が退職や異動情報とリンクできていなかった
- 年に2～3度、1ヶ月以上の期間を要する棚卸し作業が必要となっていた
- 端末認証による危険性と海外拠点への対応の難しさがあった

効果

- 従来の端末認証から、確実な本人認証へと移行
- 海外拠点からのVPNアクセスが可能になった
- 棚卸し作業をなくし、運用管理の手間を大幅削減

導入の経緯

1884年の創業以来1世紀以上、国内の産業基盤となる技術を形にし続けてきた古河電気工業(以下：古河電工)。光・情報システム、エレクトロニクスを始め、広範な分野において最先端技術を誕生させている。

ブロードバンド環境が普及してインターネットの利用がより活発になる中、同社は管理職や出張者、海外赴任者向けのアクセスやセキュリティに関する運用・管理について、次の3つの解決すべき大きな課題を抱えていた。

問題1. 接続環境が限定されブロードバンド接続ができないこと。

問題2. ユーザ管理に関する運用の手間が大きいこと。

問題3. 接続する本人ではなく端末で認証を行うため、本人以外でも接続できてしまう危険があること。

なかでも運用管理の手間は見過ごせないものであった。600人を越えるユーザをExcelベースで管理しており、退職や異動の実態に合わせるため、3～4ヶ月ごとにリストの棚卸作業が発生していた。この棚卸作業だけで、毎回、実に1ヶ月以上の時間を要していた。加えて、セキュリティを強固にしたいというニーズもあり、端末認証から本人認証へと切り替える必要があった。

導入決定のポイント

セキュリティ意識の高まりを受け、認証のための仕組みや製品は数多くリリースされている。その中で古河電工は、運用・管理が容易で、当時抱えていた課題を最大限解決できる機能を持った認証システムを望んでいた。

検討した認証システムの中にはUSBキーや認証トークンを使う認証システムもあったが、紛失や盗難などの危険性が懸念された。また、配布や管理が発生するため、運用の手間が改善されない。同様に指紋情報などを使用したバイオメトリクス認証では、特別な装置を必要とするため、設備コストだけでなく運用管理が大変だという問題から逃れることができない。

そこで最大の候補となったのが、株式会社シー・エス・イー(以下：CSE)が開発した、「SECUREMATRIX[®]」

であった。SECUREMATRIX[®]は専用ソフトウェアやハードウェアを必要としない、イメージとワンタイムパスワードを組み合わせた本人認証システムである。ワンタイムパスワードシステムでありながら、認証の際にクライアント側には認証トークンなどが必要なく、管理者は何も配布しなくてよいのである。当時、導入にあたった古河インフォメーション・テクノロジー(以下：Fitec)の担当者は「これは大変なインパクトでしたね」と語る。SECUREMATRIX[®]はVPNアクセスに必要な本人認証をブラウザだけで行えるので、海外赴任者への導入も簡単にできるはずと期待された。

当時は発売されてまもなく実績も少ない状況だったが、運用管理の手間の軽減とセキュリティの向上という本来の目的をもっとも明確に実現できる製品として、SECUREMATRIX[®]が選ばれたのである。

SIパートナー

FITEC

古河インフォメーション・テクノロジー株式会社

(現：FITEC株式会社)

〒153-0043 東京都目黒区東山1-1-2 東山ビル

TEL.03-5773-8585 FAX.03-5773-8589

URL: http://www.fitec.co.jp



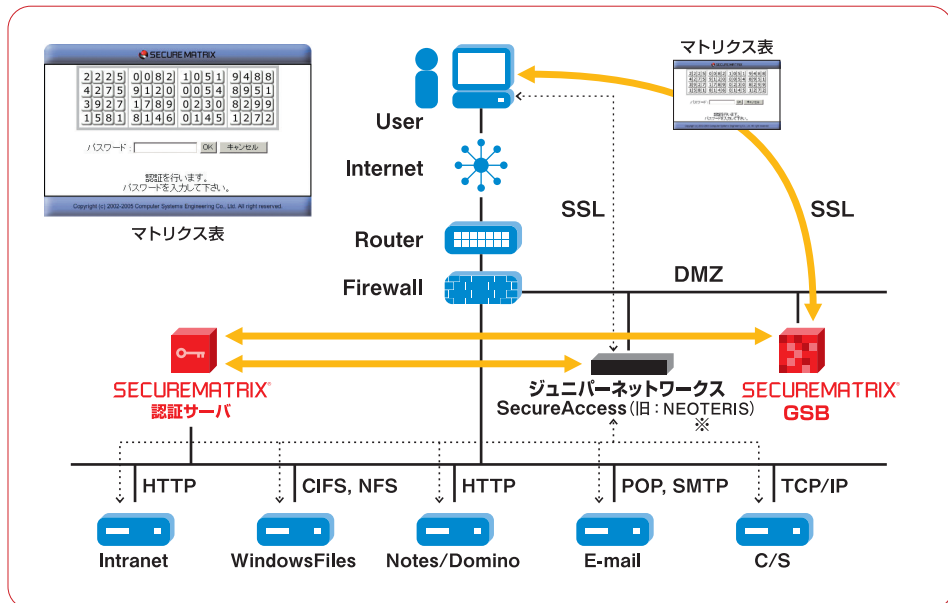


実際の導入までの課題

しかし、実際の導入はそれほど簡単なものではなかった。同プロジェクトでは、ジュニパーネットワークスのSecureAccess (旧: NEOTERIS) というSSL-VPN装置の導入が既に決定しており、この装置と認証の仕組みを組み合わせたいという古河電工からの要望があったのだ。これに応えたのが、FitecとCSEだ。

最大の関門となったのがRADIUSサーバへの対応である。製品選定当初は不可能だったが、古河電工の目的に合致するためにはどうしても対応する必要があった。そこで、SECUREMATRIX®の時期バージョンでの対応予定を急遽前倒しにすることで、ジュニパーネットワークスSecureAccessとの連携を可能にしたのである。まだSECUREMATRIX®とジュニパーネットワークスのSecureAccessとの連携実績がなかったこの当手を振り返り、Fitecの担当者は「こちらが投げた要求に対する素早い対応やサポートもあり、確かな感触と信頼醸成が得られたと思います」とCSEを評価している。

■ SSL-VPNと認証サーバによるリモートアクセスの概要



※WebブラウザのSSL機能による暗号化通信を可能にするSSL-VPN装置。クライアントに専用ソフトが不要で、安全なリモートアクセスを簡単に実現する。

現在の運用状況

新しいシステムは、600~700人で利用を開始した。SECUREMATRIX®を使って、確実な本人認証が実現できるだけでなく、出張や海外赴任などに伴う運用作業においても迅速に対応できるようになった。ユーザ情報の棚卸作業が不要になり、管理は月々の定期的なメンテナンスだけになるなど、新システムの効果は十分実感できているという。SECUREMATRIX®という製品の持つ優位性に加え、Fitecの提案やサポートに対する太鼓判が押されたかたちだ。

運用管理ワークフローを構築し、運用管理の手間を省くことにも余念がない。毎月の利用継続申請が無ければIDを削除し、未使用のIDがシステム上に残らないよう運用することで、セキュリティ上も良好な状態を保つことができる。IDが削除されても、再申請があれば即座に対応出来るのがSECUREMATRIX®の利点。海外出張先から急遽接続することになった場合でも、迅速にIDを発行することが可能だ。

導入の際、SECUREMATRIX®認証の「パスワードを形で覚える」という新しい概念は、ユーザにとってこれまで馴染みがなく、初めて使う際に操作方法を理解してもらうことが唯一の戸惑いだったという。しかし実際に一度操作することで納得してもらえ、操作方法に関する問い合わせもなくなったという。

当初の目的を達成し、SECUREMATRIX®には非常に満足しているという古河電工。アプリケーションのオンライン化が進む中、認証ツールの存在はさらに大きくなることが予想されている。古河電工でも、SECUREMATRIX®がより柔軟にさまざまなプロトコル対応を進めていくことに対し、期待を寄せている。今後は認証ツールとして、更に広範な製品やシステムと連携させていくつもりだという。

※記載内容及び、各人の所属役職は取材当時(2003年8月)のものです。



開発元

株式会社シー・エス・イー

http://www.cselttd.co.jp

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-1 A-PLACE 渋谷金王

TEL.03-5469-6026 FAX.03-5469-6037

E-mail: sales@cselttd.co.jp

●お問い合わせ先